

平成 30 年 3 月 29 日

平成 30 年東京都議会第 1 回定例会を終えて（談話）

都民ファーストの会東京都議団
幹事長 増子博樹

1. 本日、平成 30 年第 1 回定例都議会が閉会しました。昨年の総選挙後、都民ファーストの会東京都議団が迎えた初めての予算定例会でした。
2. 平成 30 年度予算案は、
 - (1) 安全・安心な「セーフシティ」、誰もが輝く「ダイバーシティ」、世界をリードする持続可能な都市「スマートシティ」の 3 つのシティの実現に向けた各分野の施策に思い切った予算措置を行うとともに、徹底した事業評価により約 870 億円の財源確保をし、スクラップ・アンド・ビルドが行われました。
 - (2) また、都民や職員のアイデアを募集するなど、「都民ファースト」「情報公開」「ワイズスペンディング」の取組の一層の推進が図られた予算案となっています。
 - (3) さらに、待機児童対策をはじめ、人に焦点を当てたメリハリのある予算案となっており、過去最高数の新事業が盛り込まれるなど、都民生活を豊かにする施策が盛り込まれています。
3. 都民ファーストの会東京都議団は、予算審議を通じ、活発な議論を展開しました。
 - (1) 東京 2020 大会を踏まえ、オリンピック開催都市にふさわしい受動喫煙防止対策を含む「たばこ対策」、民族や LGBT を含むあらゆる差別の解消、パラリンピックで東京がユニバーサルデザインの街に変わるための障害者対策や人生 100 歳時代の高齢者対策、さらに、気候変動対策やフードロス対策、さらに「エシカル対策」などを加速的に進めるよう求めました。
 - (2) 少子化対策として、「婚活」支援、「産後ケア」を行う区市町村への支援、「産後うつ」の予防対策等が盛り込まれ、ベビーシッター支援事業など待機児童対策など結婚から出産、子育てまでの切れ目のない支援を推進します。また、教育現場では、貧困の連鎖を防ぐとともに、情報社会が進展し、多くの情報が氾濫する中で、情報の真偽を判断し、自らの力で考える能力を身に着け、多様な個性を育てる教育の推進を求めました。
 - (3) 働き方改革では、「同一労働・同一賃金」の原則の徹底や非正規雇用から正規雇用への転換などによって生活ができる賃金を確保し、また、ライフ・ワーク・バランス実現のためには、東京のナイトライフや文化・芸術の場を創出して生活の質を高めていく対策を求めました。
4. 平成 30 年度予算案の採決にあたって、都議会自民党とかがやけ Tokyo は共同歩調行動をとり、都政改革本部の特別顧問などの報酬及び旅費 4,300 万円が計上されていること、築

地再開発予算 5400 万円が市場会計予算に計上されて一般会計に移し替えられていないことを理由に予算案に反対したことは、都民のための重要な政策をすべて執行させないとの意思表示にほかならず、ことの軽重もわきまえない、小池知事へのあてつけを優先した無責任な対応です。

都民ファーストの会東京都議団は、都政を前に進める責任を担い。本予算の執行を通じ、都民の皆様が豊かで安全な都民生活を享受できるよう、引き続き努力してまいります。